

# 持続可能な開発目標 (SDGs) に関する 国連「STIフォーラム」(第1回)結果について



2016年6月30日

有本建男

科学技術外交推進会議委員、  
政策研究大学院大学、  
科学技術振興機構

**“Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable development”; Resolution adopted by the General Assembly on 25 September 2015**



**1<sup>st</sup> Multi-stakeholder Forum  
on Science, Technology and Innovation for the  
Sustainable Development Goals, on 6-7 June 2016  
at UN Headquarters, NY**



# 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」

## “The 2030 Agenda for Sustainable Development”

- 2015年9月の国連総会において全会一致で採択。2030年までの国際社会全体の開発目標。
- 17の目標(SDGs)と169のターゲットから構成。

- 目標1. あらゆる場所のあらゆる形態の**貧困**を終わらせる。
- 目標2. **飢餓**を終わらせ、**食料安全保障及び栄養改善**を実現し、持続可能な農業を促進。
- 目標3. あらゆる年齢のすべての人々の**健康的な生活を確保し、福祉を促進。**
- 目標4. すべての人に包摂的かつ公正な**質の高い教育**を確保し、生涯学習の機会を促進。
- 目標5. **ジェンダー平等**を達成し、すべての女性及び女児の能力強化。
- 目標6. すべての人々の**水と衛生**の利用可能性と持続可能な管理を確保。
- 目標7. すべての人々の、**安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギー**へのアクセス確保。
- 目標8. 包摂的かつ持続可能な**経済成長**及びすべての人々の完全かつ生産的な**雇用**と働きがいのある**人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)**を促進。
- 目標9. レジリエントな**インフラ構築**、包摂的かつ持続可能な**産業化の促進及びイノベーションの推進**。
- 目標10. 各国内及び各国間の**不平等を是正**。
- 目標11. 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で**持続可能な都市及び人間居住**を実現。
- 目標12. **持続可能な生産消費形態**を確保。
- 目標13. **気候変動**及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
- 目標14. 持続可能な開発のために**海洋・海洋資源を保全**し、持続可能な形で利用。
- 目標15. **陸域生態系の保護**、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止。
- 目標16. 持続可能な開発のための**平和で包摂的な社会**を促進し、すべての人々に**司法へのアクセス**を提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある**包摂的な制度**を構築。
- 目標17. 持続可能な開発のための**実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化**。

## (参考) 持続可能な開発目標(SDGs)のための日本政府推進本部の設置

- (経緯) 日本は、SDGsの議論や政府間交渉に積極的に貢献。
  - 日本が重視する開発課題をSDGsに盛り込んだ。  
(質の高いインフラ、保健、女性、教育、防災等)
  - SDGsが採択された国連サミットでも、安倍総理から、「日本としてSDGsの実施に最大限取り組む」旨を表明。
- 今後、日本国内での実施と国際協力の両面で率先して取り組むには、関係省庁が連携し政府一体となって取り組む体制が不可欠。



- 
- 本年5月20日、総理を本部長、全閣僚を構成員とするSDGs推進本部を設置(閣議決定)。
  - 同日の第1回会合において、我が国の内外の取組を省庁横断的に総括し、優先課題を特定した上で、SDGs実施指針を策定していくことを決定した。

### ➤ 第1回会合における安倍総理発言

- 「持続可能な開発目標SDGsは前身であるMDGsと異なり、先進国を含む全ての国が取り組む世界共通の目標。この観点から日本においても、私自身を本部長とするSDGs推進本部を立ち上げ、日本政府としての実施指針を作成することを指示した。(中略) 関係閣僚においては、G7伊勢志摩サミットの成果を基に、8月に初めてアフリカで開催されるTICAD、9月の国連総会に向けて、我が国がSDGsの取組において世界をリードするよう、緊密に連携し、政府一丸で取り組むようお願いする。」

## 国連で開催された「STIフォーラム」について

- SDGsを支援 (support) するため、「Technology Facilitation Mechanism (TFM) (技術促進メカニズム)」を設置(「2030アジェンダ文書」・パラグラフ70)。
- TFMは以下の3つから構成:
  - ① 国連機関間STIタスクチーム (UN inter-agency task team on STI for SDGs (IATT)) :
    - IATTは、STIに関係する国連システムを調整すること目的とする。市民社会・企業・科学コミュニティなどから国連事務総長が任命した10人の「10-Member Group」と協働する。
    - 10-Member Group (10人委員会、任期2年):  
Co-chairs: Dr. **William Colglazier** (AAAS) と Dr. **Heide Hackman** (ICSU)  
メンバー: Dr. **Romain Murenzi** (TWAS、ルワンダ), Prof. **Nebojsa Nakicenovic** (IIASA、オーストリア), **Prof. Xiaolan Fu (UK)**、オランダ、サウジアラビア、ナイジェリア、フィリピン、ブラジル。
    - **10-Member Group**は、以下の②オンラインプラットフォームや③STIフォーラムの準備を行う他、High Level Political Forum (HLPF: SDGs実施状況の監督、「2030アジェンダ文書」・パラグラフ82) へのインプットなどを行う。
  - ② オンラインプラットフォーム:
    - STIプログラムの情報や、STIプログラムのベストプラクティス、Lessons Learnedなどの情報へのアクセスを促進。
  - ③ STI forum (Multi-stakeholder Forum on science, technology and innovation for the Sustainable Development Goals):
    - 年1回、2日間の会期で国連経済社会理事会議長が招集する。第1回が6月6-7日に開催。様々なステークホルダーを招集し、SDGsへのSTIの貢献について議論。
    - 議論の結果はHLPFへ報告される。第1回HLPFは7月11-20日に開催予定。
    - 2人のCo-chairsは経済社会理事会議長が任命(任期は規定なし): 今回は、**Vaughan Turekian** (米国務長官科学技術顧問)と**Macharia Kamau** (ケニア国連代表)。

## STIフォーラム結果概要①

- 科学技術イノベーションのSDGsに対する貢献について議論。
  - 関係者・機関間のネットワークの構築
  - 科学技術協力、人材育成、ニーズとギャップの検証、ベストプラクティス、経験の情報共有等
- パン・ギムン事務総長、オ・ジュン経済社会理事会 (ECOSOC) 議長が冒頭挨拶。科学技術への期待大。「議論だけでなく実践を」。
  - トレキアン顧問とカマウ大使が共同議長 (ECOSOC 議長から任命)
  - 10人委員会のコルグレイザー、ハックマン、ムレンジらも出席・登壇
- 参加者は約400名 (主催者発表)
  - ・有識者・科学者、若手研究者 ・起業家・イノベーター ・加盟国・国際機関代表 ・NPO
- 各国は、国連代表部か本国の研究コミュニティから参加
  - 米政府はOSTP幹部、中国は国連代表部幹部、EUは研究イノベーション総局幹部、カザフスタンは大学副学長、ナイジェリアは国立研代表等
- 日本政府参加者
  1. 有本建男 外務省科学技術外交推進会議委員・GRIPS教授  
JST研究開発戦略センター上席フェロー
  2. 堀田真吾 外務省国際協力局地球規模課題総括課課長補佐
  3. 山田基靖 国連日本政府代表部一等書記官
  4. 北場 林 JSTワシントン事務所長



## STIフォーラム概要結果②

1. 10人委員会が定めた**5つのKey Questions**をもとにパネルディスカッションを開催。

- ① Why are science, technology and innovation **essential** for the achievement of SDGs? Please provide concrete examples that, in your experience, best exemplify this.
- ② What are the main opportunities and challenges – at **policy, organizational and individual levels** - for maximizing the contribution of STI to the achievement of SDGs?
- ③ What are the key elements that countries and international organizations may need to take into account in formulating **action plans and/or roadmaps** for STI for SDGs?
- ④ How can we deploy **existing knowledge and new, innovative solutions and technologies** and make them more **readily available** to those who need them?
- ⑤ What would be success criteria for the STI Forum in the coming years? What questions should the STI Forum focus on?

2. 1日目は、以下のような多様な事例と論点が紹介された。

- 83か国でロボコンを開催するなどの理工教育振興に取り組む団体の活動
- 余剰食糧の集荷・配送を支援する学生ITベンチャーの活動
- サウジアラビアのKAUSTにおける太陽光発電と水供給の取り組み
- モーリシャスの海洋農場と深海水の利活用の事例
- G77・中国、ラテンアメリカ・カリブ共同体(CELAC)等からの支持表明
  
- 先進国と途上国間の技術ギャップ
- 国際共同ファンディングや成果へのオープンアクセスの必要性
- 途上国における技術移転のためのインフラ整備
- synthetic biologyやAIなど新技術への懸念
- 一般的なSTI政策とSDGのためのSTI政策の違い
- アーリーステージにおける資金支援の必要性



## STIフォーラム結果概要③

3. 2日目は主にSTIフォーラムの今後の進め方について多様な意見が表明された。
- 本フォーラムは多様なステークホルダーの集まるプラットフォームとしての役割を果たす。
  - グローバルと地域をつなぐパートナーシップの重要性。
  - 地域の多様なニーズにマッチする技術、知識の開発展開の必要。
  - グローバルヤングアカデミー活動との連携の必要。
  - フォーラム開催は年1回では不十分、複数回開催、分科会、地域会合の開催等が必要。
  - 10人委員会において進捗をモニターする指標を作る必要性。
  - 各国政府による目標設定が重要(ケニア政府の例紹介)。

➤ 日本から以下について指摘

- 各国科学顧問ネットワークとの連携の重要性。
- GRC(資金配分機関の世界組織)のような既存の国際的活動、科学技術のセクターを巻き込む必要。
- Future EarthやSATREPSなど新しいファンディング手法への注目。

4. 今後の方向性

- 共同議長が議論を総括する報告書を取りまとめる。
- 7月のハイレベル政治フォーラム(HLPF)、9月国連総会で報告。
- 本フォーラムはFlagship Eventとして来年もUNで開催。
- 地域会合のようなイベントをどうするかは検討課題。  
STIフォーラム自体の“reconfiguration”、“testable”。



## STIフォーラム サイドイベント概要

- ランチタイムと終了後の時間を利用して、2日間で15のサイドイベントが開催された。多くは国際機関やNPOが主催、プレゼンテーションと質疑応答で構成された1時間程度のワークショップ。
- **Co-designing fit-for-purpose STI systems at national, regional and international levels**
  - 国際科学会議 (ISCU) と国際社会科学協議会 (ISSC) が主催。ハックマンICSU事務局長が司会。
  - 途上国等とのSTIアジェンダのco-design、STIニーズの優先度、人材開発の新たなコンセプトなどを議論。
- **IoT, Innovative Technologies for Sustainable Development**
  - 国連の専門機関の一つである国際電気通信連合 (ITU) が主催。
  - IBM、アスペン研究所、シマンテックがIoTを活用した技術適用事例を紹介。新たなDigital Divideへの警鐘。
- **Special Event: the Call for Innovations**
  - 10人委員会が事前の公募から選んだ12のイノベーターによる実践的な取り組みの紹介イベント。
- **The Role of Innovation and Technologies for Sustainable Development**
  - 国連工業開発機関 (UNIDO)、WIPO、フィンランド、ケニアが共催。
  - UNIDO、コーネル大、グーグル、オックスフォード大、世銀からのパネリストが個別事例の紹介と技術実装の課題等について議論。
- **STI Forum Exhibition Hub**
  - ECOSOC議長主催の展示つきレセプション。
  - 展示にはUSAIDやAppropriate Energy Saving Technologies社 Humanitarian OpenStreetMap Teamなど約10の組織が出展。



## STIフォーラム(今後の見通し)

- 会議は、国連本部400人の大会議場が満員となり、潘基文国連事務総長、経済社会理事会議長らが挨拶を行うなど、盛況。
- フォーラム参加者は、主に、①10-Member Groupを始めとする有識者、②STIを活用して実際の事業を推進している産学の研究者技術者、若手研究者、③適切な規制・推進のあり方等を重視するNGO、④国連加盟国や国際機関。それぞれの立場から、SDGs達成に向けたSTIの開発と活用のあり方について意見を発表し議論。
- フォーラムの閉会セッションにおいて、Kamau共同議長が以下のとおり発言。今後は、これを踏まえ、HLPFへのインプットの内容や今後のフォーラムでの議論の進め方について、10-Member Group、STIフォーラム事務局(国連経済社会局)において検討が進められる見込み。
  - ① 7月のHLPFに今次会合の結果を適切にreport outすることが重要。10人委員会に、どのようなreportの内容が適切か、検討してもらう。
  - ② フォーラムの今後については、今後数ヶ月の間に集中的に議論すべき。来年も2日間のフォーラムを行うことは決まっているが、内容やモダリティは変更され得る(reconfiguration)。
  - ③ 来年のフォーラムまでの間に、inter-sessionalな意見交換の機会を設けることが適切。オンライン上の意見交換でもよい。
  - ④ 各国政府のエンゲージが重要、来年のフォーラムにより多くの閣僚に参加してもらうための仕掛けを検討。
  - ⑤ 他の機関が有している資金や情報等、既存のリソースは最大限活用。

## 所感

○日本の科学技術コミュニティー全体として、SDGsへの認識、関心を高める必要。

○10人委員会のコルグレイザー共同議長、今回のSTIフォーラムの共同議長トレキアン米  
国務長官科学顧問から、本件について日米の積極的な協力について打診。今後の各国  
科学顧問の国際会議などを通じて相談したいとの意向。

○次回STIフォーラムへの直接的な貢献として、日本からのプレゼンテーションやサイドイ  
ベントの企画、展示の出展などが考えられる。その場合は、早期に10人委員会等への打  
診が必要。

○先のG-7サミット、G-7科学技術大臣会合の結果、TICADの議論を踏まえた具体的検討  
が必要。

○SDGsは、今後(2030年までの)の世界全体(先進国・途上国を問わず)のアジェンダと  
なるもので、科学技術外交の強力な梃子となりうる。

➤ (参考)科学外交推進委員会での議論:

科学的見地からSDGsを分析し(17ゴール、169ターゲットは構造化、紐付けされてい  
るわけではない、相互に矛盾した点もあり)、日本リードでSTIを通してSDGsに貢献でき  
ることについて提唱してはどうか。いくつかのSDGs、Targetsをまとめてパッケージ化し、  
日本が取り組むべき事業、研究開発の設定等(参考:コルグレイザーの論考、  
Science誌、2015年9月4日、& ICSU/ISSC Review of Targets for SDGs )。

# 科学技術国際協力の新しい仕組み “ SATREPS ( JSTとJICAの共同ファンディング ) 日本と途上国の共同研究・人材育成・成果の展開 )

## ■ 環境・エネルギー

- Global-scale Environmental Issues

Climate change mitigation & adaptation, Safe water supply, Biodiversity conservation..

- Low-carbon Society

Biomass energy, Energy efficiency, Renewable energy..



## ■ 生物資源

Breeding and cultivation technology, Bio resource management..



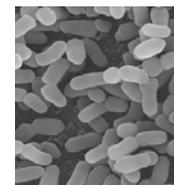
## ■ 防災

Disaster mechanisms (Earthquakes, Volcanic..), Disaster mitigation..



## ■ 感染症・疾病

Diagnostic tool, Vaccines, Therapeutic products development  
(Avian influenza, HIV/AIDS, Dengue fever..)



# 科学技術政策・科学的助言に係る組織・活動の世界俯瞰図

